

新世界遺産-その2「シルクロード」～シルクロードの始点、天山回廊の道路網～

協力：中国駐日本観光代表処

「シルクロード」の始まりは紀元前2世紀にさかのぼり、前漢の武帝が張騫を西域に派遣したことから始まり、以後、東西の交通と貿易が盛んとなり発展を遂げ、古代から東西の政治、経済、思想、文化を結ぶ重要なルートとして栄えました。なおシルクロードの名の由来は、当時、中国からの主要貿易品が絹であったことから、この名がつけられています。

今回世界遺産に登録されたのは、ヨーロッパと中国を結ぶシルクロードのうち、長安（現在の西安）や洛陽から天山回廊を経て中央アジアに至る部分で、総延長約5,000km。構成資産は玄奘三蔵がインドから持ち帰った経典を収めたとされる「大雁塔」や、「麦積山石窟寺」など中国国内の22カ所に加え、カザフスタン国内の8カ所、キルギス国内3カ所の計33カ所となっています。



中国国内の登録スポット（構成資産）

陝西省 7カ所

1. 漢長安城未央宮遺跡
2. 唐長安城大明宮遺跡
3. 興教寺塔
4. 張騫墓
5. 大雁塔
6. 小雁塔
7. 彬県大仏寺石窟



河南省 4カ所

1. 漢魏洛陽城遺跡
2. 隋唐洛陽城定鼎門遺跡
3. 新安漢函谷関遺跡
4. 崤函古道石壕段遺跡



甘肅省 5カ所

1. 麦積山石窟
2. 鎖陽城遺跡と墓群
3. 玉門関・河倉城遺跡
4. 懸泉置遺跡
5. 炳靈寺石窟



甘肅省のみどころ

〔麦積山石窟〕

麦わらを積み上げた様子に似ていることから名づけられた麦積山石窟は、敦煌莫高窟、大同雲崗石窟、洛陽竜門石窟とともに中国四大石窟に数えられている。4世紀頃から造営され始め、現在194の石窟が残っている。

内部には三尊像阿弥陀仏など多くの仏像や彩色された人物の塑像などが残っており、保存状態も良い。絶壁に、鉄製の橋と階段が設置されており、間近で見ることができる。



麦積山石窟



麦積山石窟の大仏



麦積山石窟第44窟の
仏坐像(西魏仏)

〔炳靈寺石窟〕

蘭州の南西、黄河の北岸側の峡谷の中にある石窟で、全長2kmにわたる。十六国時代の西秦から隋、唐、明、清までの各時代に造営された。

岩壁には190あまりの石窟があり、大小700体近くの仏像が残されている。険しい峡谷にある石窟のため、イスラム教徒による破壊や外国人探検家による持ち出しを逃れ、貴重な仏像が多く残されている。



炳靈寺石窟の大仏

新疆ウイグル自治区 6か所

1. 高昌故城
2. 交河故城
3. キジル石窟(千仏洞)
4. クズルガハ烽火台
5. スバシム寺遺跡
6. 北庭故城遺跡



高昌故城



北庭故城



スバシム寺遺跡



クズルガハ烽火台

新疆ウイグル自治区のみどころ

〔キジル千仏洞〕

古代シルクロードの真珠と言われたキジル千仏洞は、西域、亀茲石窟群の中で最大規模。

拝城県キジル郷から70km離れたミンウダク山の岩壁上に、3.2kmにわたって開削され、現在、236窟が



キジル石窟壁画

確認されているが、そのうちほぼ完全な型で保存されているものは135窟。

3世紀頃から作られ始め、石窟の大多数は僧侶たちが礼拝などを行う中心柱窟と方形窟で僧房もある。宗教に関する題材以外にも、古代西域の各民族の人々の暮らしを反映しているものも多い。



キジル石窟

